

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475102307		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら 高野原	ユニット名	A棟
所在地	仙台市青葉区高野原4丁目12-29		
自己評価作成日	令和 1年 11月 6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居されている方が安心して楽しく過ごしていただけるよう日々努力しています。 ・最期のその日までその人らしく生活していただけるよう医師や看護師と連携し、精一杯心を尽くしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは仙台市西部の、広瀬川と芋沢川の間東西に、長く広がる丘陵地に造成された、閑静な住宅地の一角にある。広い敷地に中庭を囲むように、バリアフリーに配慮された建物は、全館温水暖房システムの、床暖房と温風暖房で快適である。広い廊下やホールは大きな窓と、天窓から差し込む光で明るく開放感がある。入居者の絵画や塗り絵、刺繍壁飾りが、ギャラリー風に飾られている。介護度の高い入居者がいる中で、専従の看護師がいることで、職員に精神的な安心感があり、ゆとりや明るさを感じられる。庭の一角には菜園あり、菜園の手入れは大変だが、散歩する入居者が、菜園を見て喜ぶ笑顔が職員の励みになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 さくら高野原)「ユニット名 A棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目のつく場所に掲示し、再確認しながら業務を行っている	法人理念を踏まえた、ホームの理念を開設以来、踏襲している。理念は毎年、振り返りを行い、職員はそれぞれに行動目標を設定し、職員間で共有している。行動目標を達成することで、理念の実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回のふれあいまつりの開催や小・中学校の生徒の学習を積極的に受け入れている。食品の移動販売を迎え、地域の方々にも利用していただいている	町内会に加入して会議や町内一斉清掃に参加している。地区の小中学校とは職場体験学習で交流がある。ウクレレ演奏やフラダンス、健康体操のボランティアの来訪もあり、入居者も一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪者、電話相談、ご家族様のお知り合いなどの悩みを真摯に受け止め対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告のみならず、その時に頂いた意見や情報を検討しホーム運営に活かしている	偶数月の火曜日に定期的で開催され、地域包括職員は毎回出席している。ホームの入居状況や空き室状況などを報告している。出席者からは町内会行事やボランティア団体の情報等がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問・質問等があった場合は早めに連絡をし、問題解決に向け指導を受けるよう努めている	市主催のケアマネージャー研修やグループホーム協議会のフォローアップ研修案内などの情報があり参加している。市担当者とは重度化となった入居者家族との対応について、困難事例等の相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、日頃の対応について再確認をし、十分に留意しケアにあたっている	職員は定期的に身体拘束等適正化の研修会や勉強会に参加して、身体拘束の内容と弊害について理解している。外出傾向等のある入居者に対しては「認知症で困った人」ではなく「認知症で困っている人」と、捉えて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い常に注意を払っており、あってはならないことだと認識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が認められる場合は制度の紹介や活用法について伝えるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ説明しているが、契約後にも不明な点や疑問には随時答えて納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、常に要望を出すことをできるよう配慮している 面会時にはお話する機会を設け、直接ご意見ご要望を伺っている	家族の意見や要望は、ホームの行事の開催日や面会時に、聞くようにしている。要望の中にベッド柵の開閉の、不備の指摘があり、直ぐに対応した。外食やドライブの要望などもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて意見交換や提案をしている。状況により個人面談を実施している	職員の要望は、いつでも管理者が対応している。介護に関する提案が多く、介護度の変化による移乗介助や食事介助、トイレの排泄介助、パッドのサイズ変更等があり、介護計画に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に合わせて、個人面談を実施している。資格取得に向けた働きかけを行っていたが、現実には人手不足の為できない部分が多い		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などに参加する機会を設けている。資格取得への奨励を行っていたが、現実には人手不足の為できない部分が多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム協議会主催の研修を通じて同業者との交流を図っている。研修内容をカンファレンスで周知しサービスの質の向上に役立っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を少しでも軽減していただけるように話しかけたり、1日の流れを理解して安心して過ごして頂けるよう働きかける努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査などで事前に生活歴などをお聞きし、共感の姿勢を持つようにしている。ホームでの生活に不安のないよう寄り添った対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居開始前の状況を踏まえ、不安を感じることなく過ごせるような配慮と必要なケアを具体的に提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の無理のない範囲で力を貸していただき(洗濯物たたみ、食器拭き、掃除など)職員は感謝するという関係を築き、一方的な支援にならないように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りを活用し、入居者様の様子を伝えたりしご家族様からのお話を伺ったりしながら共有を図り、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の訪問はいつでも受け入れている。子供さんの家を訪ねる事にも配慮している。電話や手紙のやり取りなども行っている	馴染みの人や場との関係は、家族の協力を得て、親族の縁者や友達、仕事仲間の関係図を作ってもらい、職員で共有している。テレビの大相撲で、ひいきの力士の星取表を付けている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかな関係が築けるように話しかけの仲介やレクリエーションを通じてお互いを認識していただいたり、和やかな雰囲気づくりを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方やご家族からの相談には積極的に応えるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の交流などを通して一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている	入居者の日々の暮らしの中の行動や話から、思いを汲み取っている。職員からの情報や家族の話から具体的に対応している。電話や手紙の仲介や趣味の刺繍作品を居室に飾ったり、川柳の話し相手になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話を伺ったり、入居前の生活状況を家族調書から情報を得て、カンファレンス・アセスメントなどで情報を共有しながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを確実にし、その日の心身の状態を把握し、留意しながら現状把握に努め、早めに対応できるように情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族の参加は難しいが、日常的に思いを汲み取り反映できるようケアマネジャーとスタッフが中心となってモニタリングをし介護計画の作成にあたっている	職員が行ったアセスメント結果を持ち寄って、介護計画書に反映している。家族からの要望で、まだ自分の歯が残っている入居者の口腔ケアで、歯間ブラシを使用した歯磨きを、計画に入れた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化も記録に残し、職員で情報を共有することで新たな気づきが発見され、よりの確かなケアプランの実施、変更役に立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に合わせてご家族と話し合い、その方にあったサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、趣味に応じて地域で開かれているイベントなどに参加し、楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明をし、受診承諾を得ている。内科・歯科は月2回の往診を受けている。その他、必要に応じて受診している	現在、全員がホームの近くにある、協力医の往診を受けている。内科、歯科以外の専門医の受診が必要な時は、家族が同行するが、職員や看護師が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と日常的に情報を共有してケアにあたっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との関係を保ち、入院中の状態を把握し入院先との情報の共有に努め、1日も早い退院とその後の安定した生活に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況を的確に把握し、ご家族様と医療関係者との連携を図るよう早期から配慮し、必要に応じた支援に努めている	ホームでの看取りに関する方針を明文化して、入居時に本人・家族に説明している。毎年1回、看取りに関する職員の教育、研修も実施している。入居者の状態の変化に応じて、段階的に家族と共に協力医の助言を得て、家族の考えを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時カンファレンスにおいて学習し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災想定訓練を行っている	夜間想定を含み年2回実施している。避難場所は東西に2カ所、風向きを考慮して確保している。地域住民の避難訓練への参加がないので、運営推進会議等に相談するなどして地域住民の協力を得て頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで情報を交換し、常に全職員が意識して心がけている	声掛けは主に、排泄や入浴時、居室への出入り時で、家族からの情報を基本にして、名前や苗字に「さん付け」で声掛けをしている。入居者の状態の変化で「お父さん」や「お母さん」に変わったこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを把握するよう配慮し、尊重した支援ができるようこころがけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムに合わせて、一人一人のご希望に添った生活ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師がきて好みの髪型に切ってもらっている。着替えは自由だが、一緒に選ぶ等楽しめる工夫をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の希望メニューを提供している。敬老会、クリスマス会などの行事の時は、ビールを提供するなど特別メニューを楽しんで頂いている。日常的にもスタッフが同席し、楽しみながら食事ができる雰囲気作りに努めている。片づけなどの仕事を一緒にしていただいている。	献立の作成と調理は職員が行っている。誕生日の入居者の好みの料理を用意したり、行事に合わせた旬の料理を提供している。入居者が気を使わない席順で、職員も一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の摂取量やおやつを含めた水分摂取量を記録し把握している。食事量が少ない場合は、栄養補助食品などで補っていただくなど、その方に合わせた提供を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝と夕に行い、必要に応じてケアをしている。週1回、歯科衛生士による口腔ケアと月2回の歯科医の往診を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めさりげなくトイレに誘導している	排泄チェック表により、排泄パターンを把握して職員間で共有している。自立している人が4名、声掛け誘導が4名、オムツ使用が6名である。夜間は声掛けポータブルトイレ使用が3名、オムツ使用6名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳など提供している。便秘に傾きやすい方は医師に相談し整腸剤を処方してもらっている。ラジオ体操などの適度な運動も心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に添うように支援している。体調の優れない方については、清拭・足浴に切り替える等対応している	週2回の入浴をしている。浴槽入浴が困難な入居者のために、リフト付きの浴槽があり、車いす使用者の入浴も移乗が容易になっている。入浴剤を変えたり、一緒に歌を歌ったりするなどの楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や湿度に注意をはらい、適温適湿を心がけている。その方の体調に合わせて休息をとって頂けるよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬箱に薬名・効能・用量を記入し理解を深めている。薬の変更があった場合には連絡と薬箱への記入をし、ご本人の様子を観察して個人ファイルに記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事やボランティアによるレクリエーションをしている。生活歴や嗜好を取り入れできるだけ気持ちに寄り添った対応を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外出・外出はその都度支援している。天気の良い日は近所を散歩するように心がけている	外出の年間計画があり、定義山参拝や松島の花見や秋保温泉方面の紅葉狩りのドライブや外出に出かけている。家族の協力で外出やドライブに出かける方もいる。ホームの中庭でお茶を楽しんだり、家庭菜園を見ながら散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行よりご本人での管理は難しいが手持ちがないと不安になる方には定額を所持していただくよう対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人やご家族などの手紙やはがきのやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間の行事に合わせて飾りつけを行っている。季節により、加湿器やエアコンを使用し快適に過ごせるよう配慮している。毎日の掃除や手摺等の消毒など清潔を心がけている	全館床暖房と温風暖房で、ホールや廊下は広くて開放感がある。中庭はシンボルツリーの紅葉の木があり、通路は舗装が施されバリアフリーとなっている。ホールには季節のクリスマスツリーが飾られ、入居者は穏やかな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席を替えたりソファの位置を工夫し、和やかな会話が弾むように工夫している。独りを好む方は居室でリラックスできるように配慮している。事務所や隣のユニットとの交流も行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に好みの物や馴染みの物をもって来ていただいて居心地のいい空間で過ごして頂いている	ベッドと引き戸のクローゼットが備え付けである。入居者は使い慣れたテーブルやテレビなどを持ち込んでいる。壁には自分で作った、刺繍の作品や塗り絵などが、家族写真や記念写真と一緒に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間は足元灯をつけるなど安全面に配慮している。歩行が不安定な方には手摺を使った歩行訓練を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475102307		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら高野原	ユニット	B棟
所在地	仙台市青葉区高野原4丁目12-29		
自己評価作成日	令和 1年 11月 6日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居されている方が安心して楽しく過ごしていただけるよう日々努力しています。 ・最期のその日までその人らしく生活していただけるよう医師や看護師と連携し、精一杯心を尽くしていきます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは仙台市西部の、広瀬川と芋沢川の間東西に、長く広がる丘陵地に造成された、閑静な住宅地の一角にある。広い敷地に中庭を囲むように、バリアフリーに配慮された建物は、全館温水暖房システムの、床暖房と温風暖房で快適である。広い廊下やホールは大きな窓と、天窓から差し込む光で明るく開放感がある。入居者の絵画や塗り絵、刺繍壁飾りが、ギャラリー風に飾られている。介護度の高い入居者がいる中で、専従の看護師がいることで、職員に精神的な安心感があり、ゆとりや明るさを感じられる。庭の一角には菜園あり、菜園の手入れは大変だが、散歩する入居者が、菜園を見て喜ぶ笑顔が職員の励みになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 : さくら高野原)「ユニット名 : B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目のつく場所に掲示し、再確認しながら業務を行っている	法人理念を踏まえた、ホームの理念を開設以来、踏襲している。理念は毎年、振り返りを行い、職員はそれぞれに行動目標を設定し、職員間で共有している。行動目標を達成することで、理念の実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回のふれあいまつりの開催や小・中学校の生徒の学習を積極的に受け入れている。また地域や学校行事に招待され場合は参加するように努めている。 食品の移動販売を迎え地域の方々にも利用して頂いている	町内会に加入して会議や町内一斉清掃に参加している。地区の小中学校とは職場体験学習で交流がある。ウクレレ演奏やフラダンス、健康体操のボランティアの来訪もあり、入居者も一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪者、電話相談、ご家族様のお知り合いなどの悩みを真摯に受け止め対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告のみならず、その時にいただいた意見や情報を検討しホーム運営に活かしている	偶数月の火曜日に定期的で開催され、地域包括職員は毎回出席している。ホームの入居状況や空き室状況などを報告している。出席者からは町内会行事やボランティア団体の情報等がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問・質問等があった場合は早めに連絡をし、問題解決に向け指導を受けるよう努めている	市主催のケアマネージャー研修やグループホーム協議会のフォローアップ研修案内などの情報があり参加している。市担当者とは重度化となった入居者家族との対応について、困難事例等の相談をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、日頃の対応について再認識し、ケアに当たっている。 玄関の施錠については、利用者の状況や時間帯により施錠していることがある。	職員は定期的に身体拘束等適正化の研修会や勉強会に参加して、身体拘束の内容と弊害について理解している。外出傾向等のある入居者に対しては「認知症で困った人」ではなく「認知症で困っている人」と、捉えて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い常に注意を払っており、あってはならないことだと認識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が認められる場合は制度の紹介や活用法について伝えるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ説明しているが、契約後にも不明な点や疑問には随時答えて納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、常に要望を出すことができるよう配慮している。面会時にはお話しする機会を設け、直接ご意見ご要望を伺っている	家族の意見や要望は、ホームの行事の開催日や面会時に、聞くようにしている。要望の中にベッド柵の開閉の、不備の指摘があり、直ぐに対応した。外食やドライブの要望などもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにおいて意見交換や提案をしている。定期的に個人面談を実施している	職員の要望は、いつでも管理者が対応している。介護に関する提案が多く、介護度の変化による移乗介助や食事介助、トイレの排泄介助、パッドのサイズ変更等があり、介護計画に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施している。要望に関しては前向きに取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などに参加する機会を設けている。資格取得への奨励を行っているが、人手不足により現在は研修等に参加できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会等に参加し、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を少しでも軽減していただけるように話しかけたり、1日の流れを理解して安心して過ごしていただけるよう働きかける努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査などで事前に生活歴などをお聞きし、ホームでの生活に不安のないよう寄り添った対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居開始前の状況を踏まえ、不安を感じることなく過ごせるような配慮と必要なケアを具体的に提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の無理のない範囲で力を貸していただき(洗濯物たたみ、食器拭き、掃除など)職員は感謝するという関係を築き、一方的な支援にならないよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りを活用し、入居者様の様子を伝えたり、ご家族様からのお話を伺ったりしながら共有を図り、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の訪問はいつでも受け入れている。	馴染みの人や場との関係は、家族の協力を得て、親族の縁者や友達、仕事仲間の関係図を作ってもらい、職員で共有している。テレビの大相撲で、ひいきの力士の星取表を付けている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかな関係が築けるように話しかけの仲介やレクリエーションを通じてお互いを認識していただいたり、和やかな雰囲気づくりを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方やご家族からの相談には積極的に応えるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の交流などを通して一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている	入居者の日々の暮らしの中の行動や話から、思いを汲み取っている。職員からの情報や家族の話から具体的に対応している。電話や手紙の仲介や趣味の刺繍作品を居室に飾ったり、川柳の話し相手になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話を伺ったり、入居前の生活状況を家族調書から情報を得て、カンファレンス・アセスメントなどで情報を共有しながら把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを確実にし、その日の心身の状態を把握し、留意しながら現状把握に努め、早めに対応できるように情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族の参加は難しいが、日常的に思いを汲み取り反映できるようケアマネジャーとスタッフが中心となってモニタリングをし介護計画の作成にあたっている	職員が行ったアセスメント結果を持ち寄って、介護計画書に反映している。家族からの要望で、まだ自分の歯が残っている入居者の口腔ケアで、歯間ブラシを使用した歯磨きを、計画に入れた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化も記録に残し、職員で情報を共有することで新たな気づきが発見され、よりの確かなケアプランの実施、変更役に立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状況に合わせてご家族と話し合い、その方にあったサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではないが、趣味に応じて地域で開かれているイベントなどに参加し、楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明をし、受診承諾を得ている。内科・歯科は月2回の往診を受けている。その他、必要に応じて受診している	現在、全員がホームの近くにある、協力医の往診を受けている。内科、歯科以外の専門医の受診が必要な時は、家族が同行するが、職員や看護師が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と日常的に情報を共有してケアにあたっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との関係を保ち、入院中の状態を把握し入院先との情報の共有に努め、1日も早い退院とその後の安定した生活に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状況を的確に把握し、ご家族様と医療関係者との連携を図るよう早期から配慮し、必要に応じた支援に努めている	ホームでの看取りに関する方針を明文化して、入居時に本人・家族に説明している。毎年1回、看取りに関する職員の教育、研修も実施している。入居者の状態の変化に応じて、段階的に家族と共に協力医の助言を得て、家族の考えを確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時カンファレンスにおいて学習し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災想定訓練を行っている	夜間想定を含み年2回実施している。避難場所は東西に2カ所、風向きを考慮して確保している。地域住民の避難訓練への参加がないので、運営推進会議等に相談するなどして地域住民の協力を得て頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで情報を交換し、常に全職員が意識して心がけている	声掛けは主に、排泄や入浴時、居室への出入り時で、家族からの情報を基本にして、名前や苗字に「さん付け」で声掛けをしている。入居者の状態の変化で「お父さん」や「お母さん」に変わったこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを把握するよう配慮し、尊重した支援ができるようこころがけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムに合わせて、一人一人のご希望に添った生活ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師がきて好みの髪型に切ってもらっている。 一部の利用者様はお持ちの衣服が多く、重ね着をしてしまうため、預かっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の希望メニューを提供している。敬老会、クリスマス会などの行事の時は、ビールを提供するなど特別メニューを楽しんで頂いている。日常的にもスタッフが同席し、楽しみながら食事ができる雰囲気作りを努めている。片づけなどの仕事を一緒にしていただいている。	献立の作成と調理は職員が行っている。誕生日の入居者の好みの料理を用意したり、行事に合わせた旬の料理を提供している。入居者が気を使わない席順で、職員も一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の摂取量やおやつを含めた水分摂取量を記録し把握している。食事量が少ない場合は、栄養補助食品などで補っていただくなど、その方に合わせた提供を工夫している。 食事形態にも工夫し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝と夕に行い、必要に応じてケアをしている。週1回、歯科衛生士による口腔ケアと月2回の歯科医の往診を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めさりげなくトイレに誘導している	排泄チェック表により、排泄パターンを把握して職員間で共有している。自立している人が4名、声掛け誘導が4名、オムツ使用が6名である。夜間は声掛けポータブルトイレ使用が3名、オムツ使用6名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳など提供している。便秘に傾きやすい方は医師に相談し整腸剤を処方してもらっている。ラジオ体操などの適度な運動も心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意向に添うように支援している。体調の優れない方については、清拭・足浴に切り替える等対応している	週2回の入浴をしている。浴槽入浴が困難な入居者のために、リフト付きの浴槽があり、車いす使用者の入浴も移乗が容易になっている。入浴剤を変えたり、一緒に歌を歌ったりするなどの楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や湿度に注意をはらい、適温適湿を心がけている。その方の体調に合わせて休息をとって頂けるよう配慮している 午後にお昼寝の時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬箱に薬名・効能・用量を記入し理解を深めている。薬の変更があった場合には連絡と薬箱への記入をし、ご本人の様子を観察して個人ファイルに記入している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事やボランティアによるレクリエーションや外部の行事には参加するなど気分転換の支援を行っている。生活歴や嗜好を取り入れできるだけ気持ちに寄り添った対応を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外出・外出はその都度支援している。天気の良い日は近所を散歩するように心がけている	外出の年間計画があり、定義山参拝や松島の花見や秋保温泉方面の紅葉狩りのドライブや外出に出かけている。家族の協力で外出やドライブに出かける方もいる。ホームの中庭でお茶を楽しんだり、家庭菜園を見ながら散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行よりご本人での管理は難しいので、こちらでは管理していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的なやりとりはないが、年賀状等がきた際には、返事を書いて頂く等、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間の行事に合わせて飾りつけを行っている。季節により、加湿器やエアコンを使用し快適に過ごせるよう配慮している。毎日の掃除や手摺等の消毒など清潔を心がけている	全館床暖房と温風暖房で、ホールや廊下は広くて開放感がある。中庭はシンボルツリーの紅葉の木があり、通路は舗装が施されバリアフリーとなっている。ホールには季節のクリスマスツリーが飾られ、入居者は穏やかな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席を替えたりソファの位置を工夫し、和やかな会話が弾むように工夫している。独りを好む方は居室でリラックスできるように配慮している。事務所や隣のユニットとの交流も行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に好みの物や馴染みの物をもって来ていただいて居心地のいい空間で過ごして頂いている	ベッドと引き戸のクローゼットが備え付けである。入居者は使い慣れたテーブルやテレビなどを持ち込んでいる。壁には自分で作った、刺繍の作品や塗り絵などが、家族写真や記念写真と一緒に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方には手摺を使った歩行訓練を行っている		